



早稲田大学

古代から戦後の女性史をテーマとした問題が的中

入試問題

2月12日実施 文化構想学部 一般
日本史〔Ⅲ〕

河合塾

早慶レベル模試
38頁 5

10 下線hの両題となった出来事、X・Y・Zを年代順に並べた組合せのうち、正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答紙の該当する記号をマークしなさい。

- X 第1回帝国議会開会
- Y 第1回内閣勲章授賞式開催
- Z 枢密院の設置

ア X→Y→Z イ X→Z→Y ウ Y→X→Z エ Y→Z→X オ Z→X→Y

〔Ⅲ〕 次の文章は、日本におけるジェンダーの歴史に関する展示を観た大学生SさんとTさんの会話である。この文章を読んで、問に答えなさい。

- S: 古代の女性の政治参加について展示されていたけど、知らないことばかりだったな。
- T: うん。古代に女性の天皇がいたことは知っていたけど、推古から称徳まで8代6人の女性が天皇になったとは意外だったよ。
- S: そうだね。あと、律令制度の本格的な導入が始まったことで国家体制が変わり、政治における男女の役割が変化したとも書いてあった。
- T: 平安時代の宮中には、A という女性が仕えていたけど、どんな役割だったんだろう。
- S: いろいろあったけど、天皇とBの間をつなぐ役割も果たしていたみたいだね。
- T: Bは天皇の側近で秘書官みたいな働きをする令外官だったから、その間を取り次ぐとなると、重要な女性の労働についての展示もあったよね。中世の女性は、商業でも活躍していたんだね。
- T: うん。江戸時代の労働については、髪結の説明があった。男性の髪結は、幕府から仲間を作ることが認められていたけど、女性の髪結はそもそも営業を認められていなかったって。
- S: 大奥で働いていた奥女中についての説明もあった。奥女中のなかには農家の女子もいて、彼女たちにとっては身分を超えた昇進や出世につながりえたとか。
- T: 近代については、選擧に関する史料が展示されていたよね。江戸時代にも選擧があったけど、それと同じものが近代でも続いていたわけじゃなかったんだね。
- S: 明治期に芸妓解放令が出たからってこと?
- T: それだけじゃなくて、列強諸国の制度を参考に、国家管理が行われるようになったからだよ。警察に娼妓を登録する制度が作られたり、娼妓の性病検査が義務化されたり。
- S: 「同じものが続いていたわけじゃない」って、そういうことか。言葉は一語でも、背景や制度が違うんだね。女性をめぐる明治以降の変化って大きかったんだろうな。
- T: さまざまな点で、戦前の女性は男性に比べて権利が保障されていなかったしね。GHQの占領政策によって、その状況が大きく変わったんじゃないかな。
- S: だけど、戦前にも女性運動があったし、女性は抑圧されていたけどもいらない気がする。
- T: そうか。だとすると、女性にとって近代はどういう時代だったんだろう。解放だったのか、抑圧だったのか。
- S・T: うーん。

〔問〕
1 下線aに該当する天皇として、正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答紙の該当する記号をマークしなさい。
ア 用明天皇 イ 舒明天皇 ウ 孝徳天皇 エ 文武天皇 オ 元正天皇

5 次の文章を読み、問1～10に答えよ。

原始時代の生業では、主に狩猟を担った男性に対し、女性が採集活動などに従事し、時代が進むと女性は土器を作ったり、農耕では脱穀をしたり、布を織ったりと分業していたと考えられる。しかし、国の統治者は男女の一方に限定されず、邪馬台国の卑弥呼のような女王もいた。天皇も同様で、6世紀には皇后として天皇を支えた女性が天皇として即位し、奈良時代には皇后を経ない女性天皇も誕生したが、平安時代には男性天皇のもとで、政治は男性官人、生活は女性官人という役割が定着していった。そうしたなかで貴族の縁の中には天皇に嫁ぎ、さらに新天皇の生母として出身貴族と天皇家との重要なつながりをもたすものもいた。

鎌倉時代には、源頼朝没後にその後家(未亡人)かつ將軍の生母として政治に多大な影響力をもった北条政子のような女性も存在した。武士社会では奉公のため家を空ける夫に代わって家を守る妻や夫亡きあと幼少の子を後見する後家の地位は高く、領地を相続する女性もいたが、徐々にその対象から外されていった。一方、商工業の発展につれ行商や職人として活躍する女性も存在した。

江戸時代の基本的な社会単位は男性を代表とした家であった。この時代の身分の高い武士の邸宅は、政庁ともいえる公的な機能をもつ「表」と、妻や子女が住する私的な空間である「奥」とで構成されており、表向きは男性が、奥向きは女性が、それぞれに責任と権利をもつものとされていた。相続においては、家督や財産・家業は長子を通じて子孫に相続されることが基本とされており、通常女性は家督から排除されており、これは武士ばかりでなく一部の有力な百姓、町人の家においても同様であった。

明治時代に入り、男性には参政権が認められたが、女性には認められず、戸主権の強い明治民法のもと家族内での女性の立場が改善されることはなかった。工業の世界では、重要産業である繊維業は主に女性の労働力によって支えられていたが、その労働条件は劣悪であった。こうした女工たちは、女性は家庭内を担うという当時の観念からの逸脱とみられることもあり、新たに登場した職業婦人にも当初は同様の眼差しが向けられた。大正時代には、女性の地位向上をめざす運動も起こったが、その立場が変わることはほとんどなかった。やがて、戦争の形態が国家による総力戦へと規模が拡大していくと、前線に行く男性に代わり、銃後を守る女性の役割が大きな意味を持つようになった。

戦後、女性参政権が実現して女性議員も誕生し、日本国憲法や民法改正により、社会的にも家族の中でも男女平等が保障されるようになった。戦後の経済成長の中で、核家族化が進むと夫は家庭の「外」で働き、妻は「内」で育児家事を担い、さらにパートで働くという状況も増え、やがて女性の正規雇用も増加した。しかし、現実には様々な状況で男女差別が存在し、女性の社会的な地位の向上や男女平等の実現に向けての政策が続けられたが、一層の進展のため、女性議員の増加など政界における男女格差の解消が期待される。

問1 下線部1)に関して、原始時代の生活の説明として誤っている文はどれか。1つ選び、記号を記せ。
イ 旧石器時代には、人々は移動生活を行い、10人前後の小規模な人数で生活をともにしていた。
ロ 縄文時代には、アスファルトが石鏡の接着や、破損した土器の補修に使われた。
ハ 縄文時代には、植物性食物の煮炊きに甌とよばれる土器が使用された。
ニ 弥生時代には、紡錘車を使用して糸の紡績も始まった。
ホ 弥生時代には、木臼や磨石による脱穀が行われ、一部の銅鐸にその様子が描かれている。